

< 創立 97 周年記念特集号 >

小学科のころ

清水千代(昭和6年小学科卒
元・中学部教頭)

私が小学生だったのは大正の末期から昭和の初期に跨っている。卒業したのはちょうど50年前になる。校舎は今の前の校舎で木造のしゃれた洋館である。校門を入るとなだらかなスロープに四季の花が咲き乱れ秘密の花園へ入って行く様な気持であった。教室は質素で机や椅子はがたがたしていた。他の教室との仕切は木の扉でいざ鎌倉という時にはこの扉は外され忽ち6つの教室が消え大講堂に変じるといふ仕組になっていた。この俄か作りの講堂で学芸会や文芸会が行われる。文芸会は運動会に次いで小学科女学科一体の当時最大の学校行事であった。私の記憶に最も鮮明なのは3年生の頃女学科5年生の演じる「夜叉王」である。今でも夜叉王を演じた人に出会うと名前より先に役の名で呼びかけたくなる。5年生の頃から現在高等部が使用している新校舎建築の話が起り文字通り打って一丸生徒も先生も父兄も卒業生も宣教師も皆が一つの目的のために頑張ったのである。その時この文芸会は大きな働きをした。演劇好きの今村寿々代先生は小学校から女学生まで総動員で聖劇アブラハムとイサクやベテロ、ステパノ等、また小学生が主となった桃太郎の物語「ドンブラコ」、櫻村先生指導のダンス等重要なだし物が一杯だった。場所も青山会館や日本青年館に出張して学校関係者全員が切符を買って見るのである。生徒の演ずるものにお金を出して見る等といったら今の人はおかしく思うだろう。ましてや出演者も入場券を買って演じるのである。何とおおらか



芝公園に散歩・1年生(昭・8)
ぼうしは自由、手にはお菓子

というか面白い物の考え方ではないか。それだけに今でも母校を尋ねる同級生は廊下の柱に手をふれて私達のドンブラコがこの柱一本位にはなつたであろうと感無量である。

もう一つ思い出されるものに英語の授業がある。私の学年は1年生の時と5年6年の時に各1時間ずつ教科書なしで日本語を使わない宣教師の先生が教えられた。先生のお名前はミセス・ピンセット、威厳のある先生であったが何しろ相手は子供、物をはさむピンセットと同じなので机の上にピンセットを置いておき「これは何ですか」と質問して先生を怒らす悪児がいた。さて授業であるが、先生はいつも夜逃げの様な大きな風呂敷包みをかかえていらっしやる。中からでてくるのはいろんな種類の動物のおもちゃであった。それで犬とか熊とか豚とかの名前を教えて下さるのである。それから「私の机の上から熊をとって本棚の上に置きなさい。」という命令を出される。級全員30

人位が同じ種類の命令を行動で答える。どうしたって覚えなければ行かぬ。子供でも繰返しと経験で覚えて行く過程が何となく理解できる。名詞が終ると問と答の形で教えられた。「あなたの名前は何ですか」「どこに住んでいますか」「バラとカーネーションとどちらが好きですか」、こういった問を自分の列の人に出すと他の人が答え、

他の人が問を出すとそれ以外の人が答えるという形でこれを繰返し繰返し毎時間教えられた。文法は一つも知らないが文法にそった言葉が自然にでるまで練習される。正式に勉強する前にこれだけの素地が出来るということは大した事であったと思う。根気よく教えられた先生に感謝する。

※ ※ ※ ※ ※

<座談会>

上田朝先生・阿部光子先生・橋本佐喜子さん(卒業生)を囲んで

◇昭和8年から14年位迄が一番のどかな時でしたがその頃の様子はいかがでしたか。

橋本一小学校1年～3年生ぐらいの方のお母様が20人位お迎えにいらしていました。(正面から入り今、物置になっている所)お手伝さんつきのおばあ様も見えたり遠足の写真でも子供と同じ位の人数のおつき添いです。お弁当を温める所もあり、その延長でお母様方は大変仲がいい。入学試験の時は、母の会の方が少しずつ粉やお砂糖を持ち寄り、それで作った物を先生方に力づけにさしあげました。小学科母の会の延長が上に行きうまく出来ました。

◇校舎は女学校と分かれていませんでしたが。

阿部一上田先生は小学校と女学校と両方受持っていたので小学科のことをよく理解してく

ださり、大変嬉しかったです。

上田一小学校で教えた子供をどのようにもって行くかは、とても興味がありました。英語科でAからBに落とす時は心を鬼にしました。

阿部一それでも考え乍ら落とされる先生なのでとても有難かったです。

∴阿部先生は戦後、今のピアノ室の角の部屋に畳を敷いて松田(現菊地)三恵先生とごいっしょにお住まいでした。

阿部一戦後は大変いやな思い出ですが又なつかしい思い出です。職員室(現在、保健室)も小さく職員会議の時はドアを開けて「始まります!」と言いますと教室全部に聞こえる訳です。

◇給食についてお聞かせください。

阿部一50周年の前の年にキャフテリアが出来

来ましたが、その時にキャフテリアの先生と栄養士をお迎えしました。戦争中は小学生だけ給食があって南波先生がそのお仕事をしていたらっしゃいましたが小学科の卒業式、答辞で『おいしかった給食』ということばに南波先生は大層感動なさいま



1年生の遠足・金沢八景(昭・8)
児童27人に付添い28人

母 校 の 思 い 出

橋 本 佐 喜 子 (旧姓綾部、昭和14年小学科卒)

はっと気がついてみましたら、あのなつかしい木造の古い校舎の東洋英和女学校小学科に昭和8年に入学しましてから50年近くたってしまいました。ガタガタすのこをふみならして渡り廊下を歩いて講堂にお礼拝に参ります。そして当時校長先生のミス・ハミルトンがにこにこ子供達をこちらになり、「グッドモーニングガールズ」とおっしゃいます。その答礼は毎日色のお白いお声の綺麗なおふとりになった今村先生が、「グッドモーニング先生」とお教え下さって大きな声をはりあげて申します。それから礼拝でした。その頃の讃美歌は今でも孫といっしょに得意げにうたっております。

新しい校舎には1年生の2学期から移りその年の秋、創立50周年の記念式典や1年生から6年生まで合同の聖劇をし、私達1年生は黒い上っぱりを着てカラスになったのを覚えています。

又、櫻村先生始め余りたくさんいらっしやらなかった先生方の顔も思い出されます。櫻村先生は私達がお授業が始まる前さわがしいので、「お行儀をよくなさい」ということで両手をゲンコツにむすび、お机の両はしにおいて背すじを真直にさせられました。植松先生には私達は6年間受持っていたぎきました珍しいクラスでした。小公女・小公子・ジャンバルジャン・冢なき子等々授業の前によく読んで下さいました。その他お年を召した竹田先生、モダンな荒木先生、ちょっとこわく何時もお礼拝の時ピアノを弾いていらっしやった秋山先生、背のすわりとした中沢先生、図画のひょうひょうとした関先生等々どの先生もおなつかしくお世話になった先生方でございます。先生の赤ちゃんがおっぱいを飲みにつれられていらし

たのもあの頃ならではの風景だったと思います。

2・3年生の頃までは生徒の数より多い位の付添いの多かったこと。お母様とお手伝いさん等ということで、お授業の時も始めの頃はお教室の後にぞろっと並ばれ、その後は付添いのお待ち部屋があり、そこでお母様方の親しいおつきあいが出来、母の会の母体ともいえるのではないかと思います。毎日学校にいらっしやってお花をいけて下さっていた山田さんのおばちゃまがとても印象的でした。速足の時も下級生の時は子供の数よりお母様方の方が絶対多かったと思います。

又、夏期学校も楽しかった思い出のこまです。私達は4年生と5年生を蓼科高原の今でいえば民宿のような旅館を貸しきりで過ごしましたが、1週間始めて家から1人ではなれるのはとても不安でしたが、とにかく始めての経験の連続で山に登ったりキャンプファイヤー等不安など吹きとんでしまい楽しい1週間でした。そこにも又、お母様方が慰問と称して大勢おみえになりました。6年生の時始めて野尻に学校の山荘が出来て、小学生では私達が1番先に行った学年と思います。

今、大講堂にかゝっております「敬神」「奉仕」の額は創立50周年の時かゝげられたものですが、小学科、女学校、師範科と13年、学校教育は英和しか知らない私でございますが、この「敬神奉仕」のよき後遺症と申しますか、私共のお友達を含めてそれぞれのおかれた立場で神を敬い、人に仕える生活が出来るのをとても嬉しく思っております。私は娘も小学部から高校まで英和っ子として育てゝいたぎきました。2人共教会には本当にたまにしか出席しておりませんが、神様を心のよりどころとして母子共々生活していけますのも英

和に学ばせていたおかげと心より感謝しております。益々東洋英和が神様のみ手により素晴

らしい学校になりますよう祈っております。

小羊 1 号

「小学科の生立」より

明治 3 5 年予科及び幼稚科を合せて普通の小学校と同程度のもので認められましたので正しく言えば此の時が小学科の始めです。

此の年の 3 月第 1 回の卒業生（幼稚科）6 名を出しましたが明治 4 2 年になって、義務教育年限の延長と共に、幼稚科及び予科を通じて 6 ケ年の小学科とし認可されまして、今まで幼稚科又は予科と呼ばれていた名称が初めて東洋英和女学校小学科という名称で呼ばれるようになりました。

酒井広先生は幼稚科から女学科それから高等科と、此の学校で最初から最後まで学ばれた第 1 の方であります。酒井先生が 6 つの頃（明治 3 0 年の秋）幼稚科の生徒として只 1 人で勉強せられましたとか。先生が女学校の生徒をお教えになる側に小さい机を置いて時々教えていたのだそうです。

昭和 8 年 1 月学則を変更して小学科の定員は 1 8 0 人～2 1 0 人になりましたが、それに特別学級も加わり 2 3 0 人以上となり 7 学級で 8 人の専任先生と 7 人の兼任先生とがおられます。

小学部は長い歴史の中で幾多の変遷を経て来た。名称にしても 1 9 4 1 年（昭和 1 6 年）に小学科を初等学校と改め、昭和 2 2 年に小学部と改称された。1 9 3 3 年（昭和 8 年）には古い明治・大正の木造校舎から鉄筋の校舎に、更に 1 9 5 4 年

明治 4 2 年改正 教科 課程 表

備考 (小学科ニ於ケル英語ハ発音及聞取方練習ノ為メ単ニ会話ノミヲ教授ス)	計	英 語	体 操	習 字	唱 歌	裁 縫	手 工	図 画	理 科	数 学	歴 史	地 理	国 語	修 身	学 科
															学年
				二		一		一		二			八	二	第一学年
			各学年を通し毎週二時間		各学年毎週二時間		簡易ナル細工			二十以下ノ数ノ範囲内ニ於ケル数ヘ方及加減乗除			綴書読ミ方方方	二	第一学年
	二〇			二				一		三			八	二	第二学年
							同上	単形		百以下ノ数ノ範囲内ニ於ケル数ヘ方及加減乗除			綴書読ミ方方方	同上	第二学年
	二二			三		一				四			六	一	第三学年
						運針法	同上	簡易ナル形体		通常ノ加減乗除(珠算)			同上	同上	第三学年
	二二			三		一				四			六	二	第四学年
						衣運針法及初通歩常	同上	同上		通常ノ加減乗除(珠算)ヘ方書キ方及加減乗除			同上	同上	第四学年
	二九	一	二	四	二	二		二	二	四	一	二	六	二	第五学年
			假名交、楷書、草書			縫方		鉛筆画	博物大意	等算四則应用 珠算加減			本邦地理 作書講義 文取読	二	第五学年
	三〇	一	二	四	二	二		一	二	四	一	二	六	二	第六学年
			同上(草書假名交)			同上		毛筆画	同上	分小同 数数上		本邦歴史	同上	同上	第六学年

(昭和 2 9 年)現在の校舎が落成した。



小学科・高等女学科合同ページェント
(昭・4. クリスマス)

